

催事名：日本歯科技工士会・四国ブロック生涯研修

演者/演題：山田和伸(日技認定講師)/「審美修復とCAD/CAM 技工を成功させるために」

「審美修復とCAD/CAM 技工を成功させるために」

歯科界に審美という言葉が浸透して20年以上の月日が流れた。周知のとおり、審美修復においては、チェアーサイドとラボサイド間のコミュニケーションが重要であり、色調や形態の情報はもちろん、患者の希望とそれに近づけるために行ってきた治療計画や治療内容を可能な範囲で共有し、形に代えていくことが補綴を担当する技工士としての役割であろう。

技工サイドから思い返すと、いかに自然感のある人工歯を作るか、求められる人工歯の色調と形態、隣在歯とのバランスをどうするか、歯周組織に適応する人工歯の要点は何なのか、インプラントに対する上部構造にどう対応するかといった観点で、それぞれに高いクオリティーの審美性が求められてきた。そして同時に、さまざまな人工歯用の歯冠材料と周辺機器が開発され、今日に至っては技工工程の一部をCAD/CAMが支援するまでになった。

CAD/CAMの応用は、ジルコニアなどの素材を成形・加工することを可能としたが、我々歯科技工士にとって、ジルコニアの特性を考慮したコーピングの色や形の調整という、新しい技法を体得する必要がでてきた。すなわち、材料の選択と扱い方については、実際に操作する歯科技工士にかかわる部分が依然大きいことは否めない。

今回演者は、いくつかの臨床例を通して、高いクオリティーの審美性を達成するためにどういう情報が必要だったのか、そして技工工程における注意点はどこにあったのか、これらをふりかえりながら述べてみたいと思う。また、最近のトピックスであるCAD/CAMについても検討を加え、演者なりの活用法についても、臨床例を交えながら述べさせていただきたい。

また私自身の渡航経験から、とくに印象深い出来事やさまざまな国の技工士仲間の考え方などをとりとめもなく混ぜてお話してみたいと思う。